

ふれあい報告書[®]2006

ワタミグループ CSR報告書



地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。

WATAMI[®]

はじめに

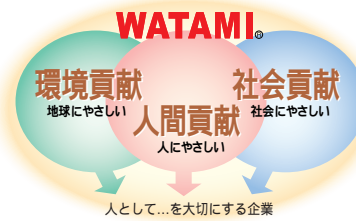
「ふれあい報告書」というタイトルは、私たちの活動の根幹である経営理念からネーミングされました。私たちは、人として、社会の一員としての責任を果たし、事業活動を営む一方で、できる限りの社会貢献(還元)に取り組んでいくことが大切だと考え「できることからコツコツと一歩ずつ」を基本に創業時より努力してまいりました。

2001年より、この考え方に基づく行動を「ふれあい活動」と名づけ、グループのテーマに「環境貢献、社会貢献、人間貢献」を掲げ、今まで以上に明確に決意(意思)を表明し、毎年、環境および社会貢献に関する報告書として「ふれあい報告書」を発行してきました。

今年度からは、より内容を充実させ、「環境」「社会貢献(地域・社会)」のみならず、「お客さま」「株主様」「お取引先業者様」「従業員」などステークホルダー(利害関係者)との関わりについても記載し、CSR報告書として発行しました。

持続可能な企業に向けたワタミグループの課題を含め、主要なパフォーマンスデータを織り込み作成しました。

本報告書を通じて、皆様の温かいご理解と貴重なご意見を頂戴することができたら幸いです。



お問い合わせ先

ワタミ株式会社(社長室)
 東京都大田区羽田1丁目1番3号(〒144-0043)
 TEL(03)5737-2784 FAX(03)5737-2793
 ワタミふれあいホームページ <http://www.watami.co.jp>

編集方針

本年は、まずCSR報告書初年度としまして「正確な現状」をお伝えすべくGRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」を参考に、ワタミグループの活動実績をご報告します。

活動や取り組み内容を分かりやすくご紹介していくことを目的に主たるニーズの共通するステークホルダー(お客さま、株主様、お取引業者様、従業員、地域・社会、環境)の皆様ごとに分類し、掲載しています。

ステークホルダー別の扉ページでは、活動に対する姿勢や今後の課題について記述しました。また、本文ではどのようにご意見・ご要望を伺い、企業活動に活かしているかを積極的に掲載しました。

対象範囲

ワタミ株式会社および国内連結子会社13社を基本に、一部の報告書では海外を含むワタミグループ全体、あるいはグループ会社の活動についても紹介しています。

本文中では、基本となる国内連結子会社13社を「ワタミグループ」または「ワタミ」と表記しています。対象が異なる場合は、該当する会社を記載しています。ただし、「環境とともに(P51~P62)」ではワタミ(株)および国内外食企業3社、ワタミエコロジー(株)の5社を対象とし、それら5社を「ワタミグループ」または「ワタミ」と表記しています。

また、2005年度のワタミ(株)の活動のうち、外食事業についてはワタミフードサービス(株)と記載し、2006年4月からの持株会社体制に合わせた表記としました。

ワタミ(株)と表記する場合は、ワタミフードサービス(株)に移管した外食事業は含まれません。(2006年4月1日に、ワタミ(株)より外食事業をワタミフードサービス(株)に移管しました。)

ワタミメディカルサービス(株)および(株)アールの介護は、2006年4月1日に合併し、ワタミの介護(株)と社名変更したため、両社の内容については統一して「ワタミの介護(株)」と表記しています。

対象期間

2005年度(2005年4月1日~2006年3月31日)の活動を中心に、一部最新(2006年度)の情報をご紹介します。

和民(中国)有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司、三商和民股份有限公司の3社については、12月決算のため、2005年度(2005年1月1日~12月31日)の情報としています。

<将来の予測・目標について>

本報告書には、ワタミグループの過去と現在の事実だけでなく、将来の予測・目標なども記載しました。しかしながら、これらの予測・目標は、記述した時点で入手可能な情報ないし判断であり、リスクや不確定な要因を含んでいます。

したがって、将来に生じる様々な要因により活動結果が、本報告書に記載した予測・目標と異なる可能性があります。読者の皆様には、以上のことをご理解いただけますようお願いいたします。

<参考にしたガイドライン>

- グローバル・リポーティング・イニシアティブ(GRI)
- 「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」
- 環境省「環境報告書ガイドライン2003年度版」

発行日

2006年9月(次回発行:2007年9月、前回発行:2005年9月)

会社概要(2006年3月末現在)

社名:ワタミ株式会社
 本社所在地:東京都大田区羽田1丁目1番地3号(〒144-0043)
 創業:昭和59年4月
 設立:昭和61年5月
 売上高:82,671,651千円
 資本金:4,334,558千円
 従業員数:2,827名(グループ計)(2006年4月1日現在)

ワタミグループは、外食事業を中心に、介護・農業・環境・教育の分野で事業を展開しています。ワタミの最大の財産である「人」が差別化要因となる事業で積極的な展開をしています。

グループ事業内容(2006年3月末現在)

- 外食:飲食店の経営およびフランチャイズ加盟店の店舗管理
 グループ直営店およびフランチャイズ加盟店の酒・飲料の納入
 店舗数:国内536店舗、海外17店舗
- 介護:訪問介護・居宅介護支援事業および施設介護事業
 施設数:17ホーム
- 農業:農産物、有機肥料の生産・販売およびグループ企業への農産物の納入、酪農・養鶏事業
 農場:国内6農場(面積:245.5ha)
- 環境:グループ企業および他の企業の店舗施工・メンテナンス・環境改善業務の受託
- 教育:グループ企業の人材採用・教育業務の受託
- その他:グループ企業への花卉類の納入および一般小売

目次

「ふれあい報告書2006」発行にあたり	P 2
トップメッセージ	P 4
ワタミグループに共通する経営の考え方	P 5
ワタミのCSR	P 6
コーポレートガバナンス	P 8
企業倫理とコンプライアンス	P 10
リスクマネジメント	P 11
CSR指標	P 12
お客さまとともに	P 13
外食事業	P 14
介護事業	P 23
農業	P 26
環境事業	P 28
株主様とともに	P 29
株主様の満足を目指して	P 30
開かれた総会を目指して	P 32
お取引業者様とともに	P 33
お取引業者様との共存共栄を目指して	P 34
特集 ワタミファームの取り組み	P 36
従業員とともに	P 37
研修・制度	P 38
機会均等の徹底へ	P 43
安心して働ける職場を目指して	P 44
地域・社会とともに	P 45
社会貢献活動	P 46
特集 スクール・エイド・ジャパン	P 50
環境とともに	P 51
ワタミにおける環境活動の考え方	P 52
環境マネジメントシステム	P 53
廃棄物低減の取り組み~店舗ゼロエミッション	P 54
CO ₂ 排出量の削減~エネルギーマネジメントシステム	P 55
お店での環境対策	P 56
外食店舗スタッフの教育	P 58
配送におけるCO ₂ 削減	P 59
環境コストと効果の集計	P 60
特集 ワタミの森林づくり開始	P 61
環境年表	P 62
GRI対照表	P 63
2005年度アンケート結果	P 65
2006年度アンケート	P 66
第三者所感・編集後記	P 67

「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループ」になりたい。

ワタミは、夢の実現にこだわる会社として前進し続けます。



トップメッセージ

夢に日付を。

ワタミ株式会社
代表取締役社長・CEO

渡邊美樹

夢の実現にこだわる会社

その夢は、私たちの夢だけでなく、お客さまの夢であり、社会の夢であり、そして、地球に住む人すべての夢でもあること・・・。

ワタミは、この思いをカタチにすることでさらに大きなありがとうを集めてまいります。

私たちの事業を通じて

「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供する」ために・・・。

ワタミと出会ったすべての方たちに、私たちの存在を喜んでいただけるように・・・。

もっとたくさんの笑顔や「ありがとう」に、より多く関わられるグループ企業になるために・・・。

夢に日付を入れつつ、一歩ずつ、着実に進む・・・そんな“体の重い亀”のように歩んでまいります。

2005年、第二の創業宣言とともに社名変更

グループ企業として、その価値を最大にするために、経済・社会・環境面において実施している取り組みについて、その原点を振り返りました。

1997年より開始した“全社員で行う社会貢献”は、日本のみならず海外でもその輪を広げる活動を始めることができました。

2004年に完成したゼロエミッションの仕組みに満足することなく、CO₂排出量ゼロ企業という新たな目標を掲げました。

グループの組織や統括体制についても、1年間で大きく変化しました。

2001年より毎年発行している本報告書も、「環境・社会貢献報告書」から「CSR報告書」へと一歩前進しました。制作にあたり、今まで取り組んではいきましたが、目標が明確でないものもありました。あらゆるステークホルダーに対し、様々な指標に対し、明確な目標を持つため、改めて自分たちの社会に対する関わり方と、会社の価値について振り返る機会となりました。

ワタミのCSRは「ありがとうの総和」

お客さまから「こんなお店があってよかった、ありがとう」

と何人の方から言っていただけか。

ご入居者様から「こんな施設があってよかった、ありがとう」

と何人の方から言っていただけか。

投資してくださっている株主様から「こんな会社に投資ができて

よかった、ありがとう」と何人の方から言っていただけか。

お取引してくださっている関係会社から「こんな会社と取引ができて

よかった、ありがとう」と何人の方から言っていただけか。

働いている社員から「こんな会社で働けてよかった、ありがとう」と

何人から言ってもらえるか。

地域・社会の方から「こんな会社があってよかった、ありがとう」と

何人の方から言っていただけか。

地球環境の保全・復旧に対して、どれだけの貢献をさせていただけか。

それこそがCSRであり、会社の価値を決めると信じています。

地球上で一番たくさんのありがとうを集めるべく、グループ全社・全

社員で取り組みます。

皆様の 変わらぬご支援を 心よりお願いいたします。

ワタミグループに共通する経営の考え方

私たちは、企業は人そのものであり、一人ひとりの行動の反映であると考えます。

私たち一人ひとりが、365日24時間、ワタミらしく生きることで“WATAMI”に込められた思いを実現できます。

目指す姿は、様々な社会貢献型ビジネスをグループで展開、ステークホルダーの皆様から、感謝と信頼を集め続ける

「ビジョナリーカンパニー“WATAMI”」です。ワタミがその事業に参入してくれてよかった・・・と言われるように、

「人」と「人」がふれあう、あらゆる場面で、“ありがとう”を集めます。

ワタミグループスローガン

「地球上で一番たくさんの“ありがとう”を集めるグループになろう」

ワタミグループミッション

「地球人類の人間性向上のためのよりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること」

ワタミグループ経営の基本目的

1. 会社の繁栄、社員の幸福、関連会社・取引業者の繁栄

1. 新しい文化の創造、人類社会の発展、人類の幸福への貢献

【グループ企業が目指すことを各社の経営目的に表現】

グループ各社の経営目的は、グループ共通の経営の基本目的に加え、各事業領域での目指すことを表現しています。

外食 一人でも多くのお客さまに、あらゆる出会いとふれあいの場と安らぎの空間を提供すること

介護 一人でも多くの高齢者の方に心からのお世話をさせていただくことにより、お一人おひとりの幸せに関わらせていただくこと

農業 食の基本である安全・安心を追求し、次世代に良い環境を残し、人々の幸せに貢献する

環境 さまざまな施設における環境改善を行う事により、現在進行している地球規模の環境問題の改善に寄与する

教育 人間性を高める「仕事」と「職場」づくりを支援し、人と企業との新たな出会いの場を創造する

グループ社員の仕事の仕方に対する合言葉

「from-0」

「明るくのびのびと仕事をしよう」

グループ社員としての行動基準

ワタミグループは日々の仕事の中で以下の基準を常に意識し、行動し、常にワタミらしくあるべし

1. 常に謙虚なれ、常に感謝せよ

1. 他人の喜びや悲しみを共有せよ

1. 約束を守る、嘘をつかない

1. 愚痴、陰口を言わない

1. 笑顔で元よく挨拶をする

1. 出来ないと言わない

1. 失敗を他人のせいにならない

1. 大いに発言し、果敢に実行する

1. 他人の意見を聞く

1. 恥ずかしいと思うことはしない

グループ社員の仕事に対する心構え

ワタミグループは同じ目的のために同じ心を持つ同志の集合体であるべし

1. 感激できる感性を持つべし 感激は情熱の

源であり、情熱は成功への出発点である

1. 逆境に悲観せず、順境に楽観せず、常に

ハングリー精神を持ち 挑戦し続けるべし

1. 勝つまで戦え、限界からあと一歩進め

結果がすべてである

1. 問題意識を持つべし 問題の発見と解決が

次のビジネスチャンスを生む

1. 継続こそ力なり 日々の努力は継続される

ことにより信用を生み、信用は力を生む

ワタミグループ憲章

ワタミグループは、

一、地球上で一番たくさんのありがとうを集めるために戦う

一、人間性の向上のため、夢を持ち、夢を追い、夢を叶える

一、人として美しい生き方を追求する

一、「人」が差別化となる事業にのみ参入する

一、お客様の満足をすべてに優先させる

一、公明正大な人事を行なう、完全実力主義こそ、

人事の要諦とする

一、額に汗した利益を、利益と認める

一、ありがとうの分だけ売上を上げ、知恵の分だけ利益を出す

一、すべてのことにおいて、損得で判断せず善悪で判断する

一、ワタミらしいことをすべて肯定し、

ワタミらしくないことをすべて否定する

ワタミグループ憲章はワタミグループの経営判断基準を明文化したものです。

“ありがとう”を集めるためにできること~ワタミのCSR

社会の一員として当たり前のことを当たり前に行います。

ワタミのCSR

ワタミにとって、企業としてCSRを追求することは特別に新しい概念ではありません。創業当時より、あらゆるステークホルダーの皆様の満足を追求してきました。既存の慣習に捉われることなく、経済的・社会的・環境的ニーズの充足に挑戦し、革新された社会づくりに邁進してきました。

今後も、グループスローガンに代表されるワタミの理念に基づき、よりよい社会、新しい社会のあり方を開発・提案・実践することでCSR活動(地球上で一番たくさんのありがとうを集める活動)を進めていきます。

地球環境を破壊することなく、安全・安心な社会のため、人として、企業としての使命(責任)を果たす持続可能な経営へ挑戦し続けます。

CSRの領域

ワタミは、グループのミッション・スローガンを共有し、一人ひとりが新たな価値の創出、持続可能な社会の実現・地球環境の保全に向け、理念に基づき自発的な活動目標を設定し、その内容を深めることは必須と考えています。

一環したCSR活動を維持・継続するため、その活動の対象となる方々を主要なステークホルダーとして、「お客さま」「株主様」「お取引業者様」「従業員」「地域・社会」「環境」に分類、そのさらなる追求に努めています。

- お客さまへの責任：安全・安心で、付加価値の高い商品を提供
- 株主様への責任：安定的な経営と適切な情報開示
- お取引業者様への責任：公正で公平な取引、相互に補完・繁栄できる関係の構築
- 従業員への責任：安全で適切な労働環境の構築・公正な評価
- 地域・社会への責任：積極的な地域との交流と社会貢献
- 環境への責任：お取引業者様を視野に入れた環境負荷の低減

社会的責任を果たしていくために

ワタミが、社会的責任を果たすため、“すべてのステークホルダーの皆様からの感謝”をいただくために、皆様との対話を積極的に行い、私たちの活動に対する“声”を集めています。

皆様から寄せられたご提案・ご意見・クレームは、すぐに検討(対応)するとともに、課題解決への計画を策定、それぞれのマニュアルへの反映、業務計画への組み込みを行っています。

計画の実施、結果の評価、継続的な改善、確実なる目標達成に向けて、PDCA(計画 実行 評価 改善)サイクルを稼働させ、活動に取り組んでいます。

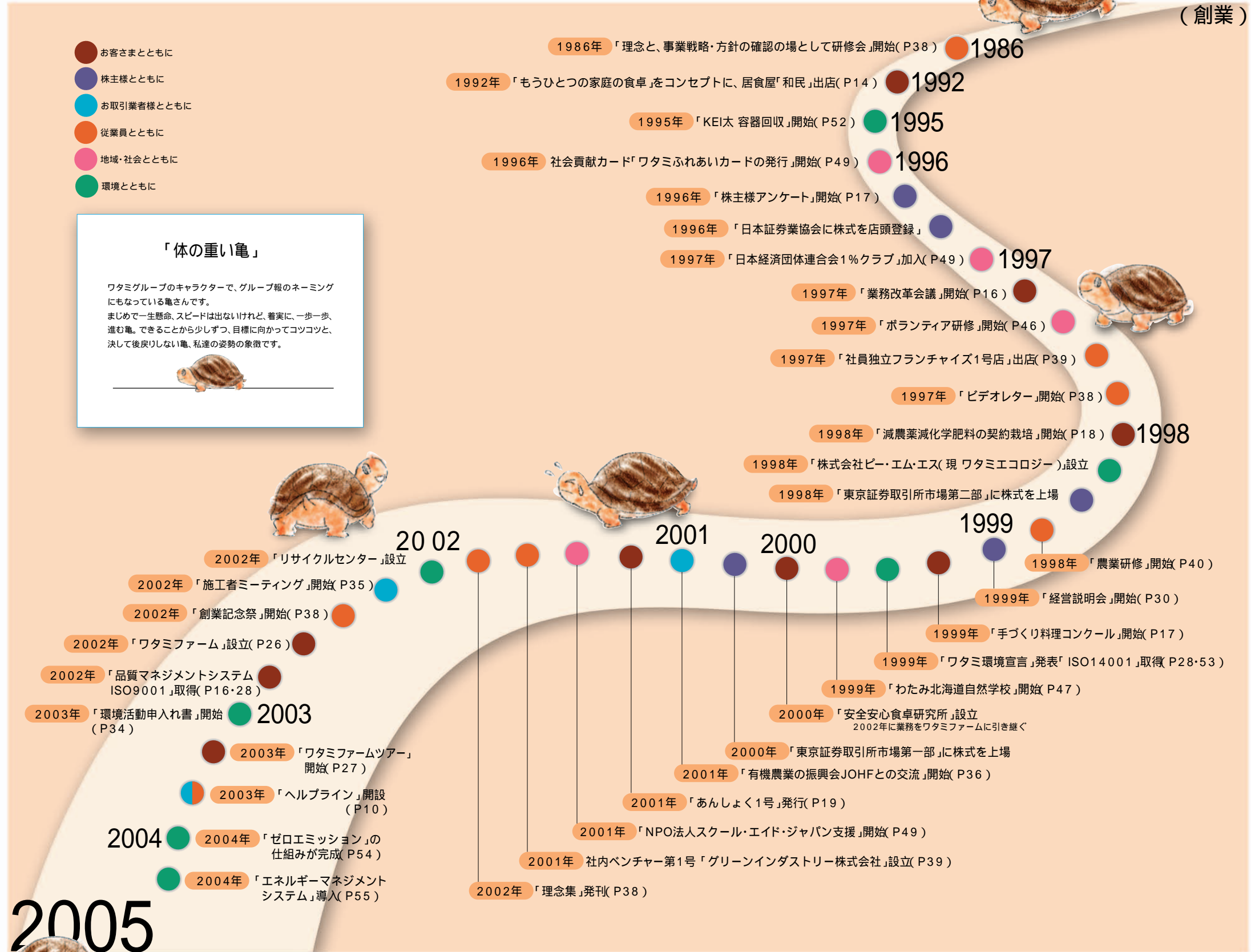
ブランドテーマ

ワタミグループでは、環境、社会、そして人に対して、よりやさしい存在になることを目指し「環境貢献・社会貢献・人間貢献」をブランドテーマとしても掲げ、取り組んでいます。

私たちの行動が、「改善(プラス)」にいたらなくても「原因とならない(害とならない、マイナスとならない)」という宣言です。

会社の存在そのものから、事業の選び方も、仕事の仕方、「人」に良い影響を与える存在であり続ける。テーマとして掲げたことを「常に忘れずに、少しずつでも、やり続ける」というグループ全社の意思表示です。

CSR関連活動の歩み 1984年~2004年度までの主な出来事について記述しています。



- お客さまとともに
- 株主様とともに
- お取引業者様とともに
- 従業員とともに
- 地域・社会とともに
- 環境とともに

「体の重い亀」

ワタミグループのキャラクターで、グループ報のネーミングにもなっている亀さんです。まじめで一生命、スピードは出ないけれど、着実に、一步一步、進む亀。できることから少しずつ、目標に向かってコツコツと、決して後戻りしない亀、私達の姿勢の象徴です。



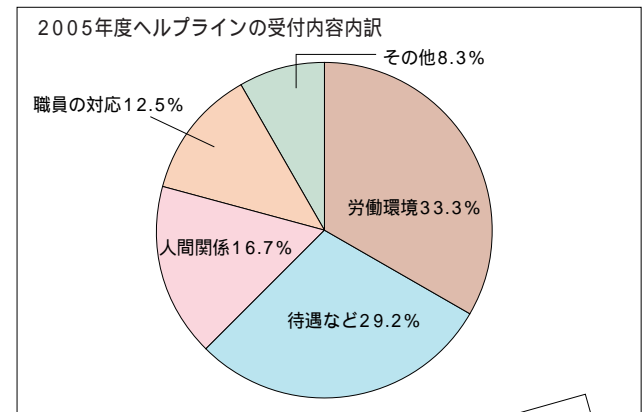
企業倫理とコンプライアンス

企業倫理とコンプライアンスの徹底のために

ワタミグループでは、企業としての社会的責任を果たしていくうえで「理念の浸透」に加え、「企業倫理の確保」と「遵法精神の醸成」を最も重要な活動の一つに位置づけて、社内への浸透に徹底的に取り組んでいます。

役員・社員の一人ひとりが法令の順守にとどまらず、高い倫理観・使命感を持って実践に取り組めるよう、「理念集」を全社員に配布し、事業責任者が主催する教育・啓発活動を毎月実施しています。(詳しくはP38)

また、執行部門から独立した監査室を置き、内部監査規程に基づき定期監査および臨時監査を行っています。さらに、社外プレーンを含む企業行動委員会および社会的責任の履行に対応する情報収集窓口(ヘルプライン)を設置し、牽制機能を確立しています。



ワタミヘルプライン

2003年に、グループ内に存在する問題を広く受け、積極的に解決し、自己改善・自浄のできる組織になることを目指し、情報収集窓口(ワタミヘルプライン)を、グループ従業員(パート・アルバイトを含む)およびお取引業者様に向け開設しました。

このヘルプラインは、社内独立組織のヘルプラインプロジェクトに直接連絡する窓口と外部委託機関である(株)インテグレックス経由で連絡する窓口の2つを設けています。

社内外の2つの窓口を持つことで、企業活動に伴うリスクの早期発見・未然防止の体制を強化するとともに、制度の透明性・利便性の向上、通報者の保護の徹底に努めています。



パンフレットをお取引業者様へ配布し、ポスターを店舗などの更衣室に掲示するなど、周知徹底を図っています。

ワタミヘルプライン概要

受付体制

ワタミグループ企業の法令・契約違反
不当な要求や地位の濫用
店舗で使用する食材の品質にかかわることなど、私たちが社会の信頼を失う可能性のある内容について、Eメールによる情報提供をお願いしております。

2つの約束

守秘義務の約束

情報提供に際しては、「情報のご提供は実名」が原則となっております。ワタミグループ内部の「ヘルプラインプロジェクト」とインテグレックス社の「ヘルプライン」は、通報者の秘密を守ります。

報復禁止の約束

通報者がヘルプラインに情報を提供することでワタミグループから報復を受けることはありません。

受付窓口

Eメールの受付窓口は2つあります。

グループ内窓口は、社内独立組織の「ヘルプラインプロジェクト」がメールを受け付け、対応します。

外部委託の窓口は、(株)インテグレックスに設置されており、通報者の所属や氏名などを伏せてワタミ社内の「ヘルプラインプロジェクト」に情報が提供されます。

インテグレックス社は、企業の社会責任を支援する会社で、連絡者とワタミグループの間に入り中立性を維持します。法令上の義務を負う場合を除き、本人の了解なく氏名などがワタミ側に情報提供されることはありません。

もし思い当たることがあれば
窓口へEメールにてご連絡ください。

ヘルプライン受付アドレス Eメールアドレスへは携帯電話からのメールでも可能です。

A ワタミヘルプラインプロジェクト w-helpline@watami.net

B (株)インテグレックス(外部委託会社) w-helpline@integrex.jp

インテグレックスホームページ <http://www.integrex.jp>

受付までの流れ 携帯電話のメールでも可能です。

通報者本人 → (実名でEメール) → WATAMIヘルプラインプロジェクト(ワタミグループ内部) → 事実の調査 → 案件の評価判定 → 当該企業へ報告・勧告 → グループ各社の対処 → 通報者へ報告

通報者本人 → (実名でEメール) → 外部委託窓口(株)インテグレックス → 匿名で連絡 → WATAMIヘルプラインプロジェクト(ワタミグループ内部) → 事実の調査 → 案件の評価判定 → 当該企業へ報告・勧告 → グループ各社の対処 → 通報者へ報告

外部委託窓口(株)インテグレックス → 報告内容 → 外部委託窓口(株)インテグレックス → 通報者へ報告

企業行動委員会による監査

リスクマネジメント

リスクマネジメントの推進

ワタミグループではリスクを、(1)経営リスク(2)政治・経済・社会リスク(3)災害・事故などのリスクなどに分類し、それぞれのリスクの影響度・発生頻度を考慮し管理しています。

外食事業では、BSEや鳥インフルエンザなどの感染症の蔓延による仕入価格の高騰や、集中仕込みセンターの稼働不能による供給体制の支障、社会保険加入基準変更などの法改正といったリスクがあります。

また、グループ事業の拡大に伴い、農業での天候不順や介護事業での保険制度の改正など、新たなリスクが発生しています。

リスクが具体化した場合には、業務の早期復旧を図るべく、各グループ会社の責任者が中心となって「緊急対策本部」が設置されます。

緊急対策本部は、情報連絡チームおよび顧問弁護士などを含む外部アドバイザーチームを組織し迅速な対応を行い、損害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整えています。

今後も、リスク項目の選定および未然防止、対策組織の整備に向けて、継続的に内容を見直すなどレベルアップを図っていきます。

想定される主なリスク

リスク種類	カテゴリー	項目
経営リスク	製品	衛生管理
	生産	生産拠点の崩壊、仕入れ単価高騰
	知的財産権	著作物・商標侵害
	雇用	差別、役員・従業員の不祥事
	法務	商法違反・インサイダー取引
	資産運用	不良債権・貸倒れ
	投資	企業買収、敵対的買収
政治・経済・社会リスク	信用	情報管理の不備、顧客情報漏洩
	政治	法律の制定、制度・税制改正
	経済	景気変動、為替・金利変動
災害・事故などのリスク	社会	戦争テロによる社会的混乱
	自然災害	異常気象、地震、風災など
事故	火災、交通事故	

情報セキュリティの強化

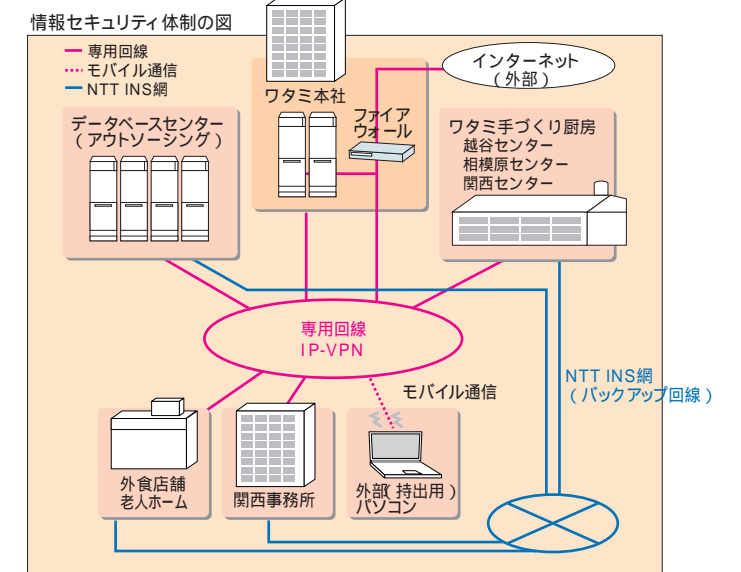
事業活動を遂行するうえで不可欠な情報の保護・管理は、企業として当然の責任と認識し、その整備に積極的に取り組んでいます。

各施設(店舗・ホームなど)は専用の通信ネットワークを整備することでアクセスを制御、外部(インターネット)への接続は、本社ファイアウォールを経由することでセキュリティを強化しています。

また、天災や災害に備えデータベースセンターを地盤の強い立地に選定するほか、通信ネットワークのトラブル発生時には、自動的にバックアップ回線に切り替わるシステムを導入、データ送信に支障の出ない体制を構築しています。

さらに、不正ソフトウェア対策に対応するほか、盗難や紛失への対処等、厳格な運用・監査と継続的な見直しを図っています。

- ・IDとパスワードによる本部パソコンのアクセス制限(外部持出し用パソコンは、IDによる利用者制限)
- ・自動スキャンによる不正ソフトの検出
- ・ファイアウォールの導入
- ・災害対策と高度なセキュリティ機能を持つデータセンターを設置
- ・IP-VPN網によるネットワーク構築



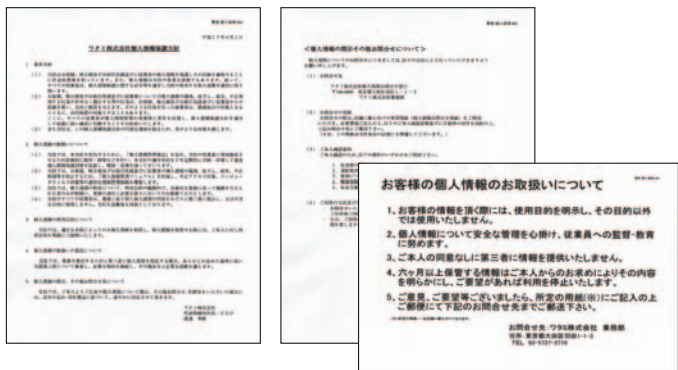
個人情報の安全管理体制

ワタミグループでは、2005年4月の「個人情報保護法」の全面施行に先立ち、主要社員を対象に専門部署による説明会を実施しました。

外食店舗では、全店に個人情報の取扱いについて掲示はもちろん、個人情報に関するお問い合わせに対する専用窓口をご案内しています。

内部統制としては、お客さまの名簿はもちろん従業員の個人情報についても、施錠可能な場所に保管するルールが徹底されていることを定期的に確認する体制を導入しています。

また、ワタミふれあいホームページでは「お客さまの個人情報に関するプライバシーポリシー」を公開し、法令および当社が定めた内部規則を順守することを宣言しています。さらに、外食店舗の評価を送信するアンケートフォームにおいては、送信される情報はSSLにより暗号化しています。なお、2005年度に個人情報保護法に違反する事案はありませんでした。



外食店舗に掲示されている個人情報保護方針

CSRの取り組みを通じて、グループの価値最大化を目指します。

ワタミグループでは、CSRへの取り組み状況を定量的・継続的に把握するためにCSR指標を算出しました。財務面における指標だけでなく、各ステークホルダーに対して目標値を設定しています。本報告書で取り上げた活動や主な指標を各対象(範囲)ごとにわけて掲載します。

CSR指標

対象	範囲	項目	2005年度(結果)	2006年度(目標・方針)注14)	掲載ページ
連結	グループ注1)	売上注2)	82,671百万円	101,010百万円	30
		経常損益注2)	3,292百万円	4,590百万円	
		ROC	6.94%	2010年度・25%	30
	外食注3)	店舗数()	553店舗	653店舗	14
	介護	ホーム数()	17ホーム	21ホーム	23
農業注3)	農場面積()	245.5ha	450.5ha	26	
単体	ワタミ(株)	売上注4)	63,816百万円	11,140百万円	-
		経常損益注4)	3,170百万円	780百万円	-

お客さま	外食注3)	客数	32,837千人	(安定的な拡大)	-
	外食注5)	WFS	67.4%	週間80%以上	16
		WDFS	71.2%		
		T.G.I.F J	79.7%		
		和民中国	56.1%		22
	和民台湾	52.8%			
	介護	アンケート満足度 実績は年間の累計数値	73.3%	週間100%	24
	環境		88.4%	月間80%以上	28
	外食注6)	禁煙対応店舗()	177店舗	(新規店舗導入)	21
	グループ注7)	有機・特裁納入比率	41.83%	40%以上	18
有機加工物の使用		547t	714t		
添加物の削減		1,249kg	1,700kg	19	
株主様	ワタミ(株)	配当	10円	(安定配当の維持 敏速な情報開示)	30
		株主数()	65,858人		
		発行済株式総数()	41,491,780株		
		個人株主の持株数比率(役員・従業員除く)()	33.2%		
お取引業者様	ワタミ(株)	環境への取り組み説明会	新規92社	(新規お取引業者様に対する説明会実施)	34
	農業	有機農業生産者との交流会	70人	(現状維持)	36
従業員	グループ	社員数()注1)	2,355人	新卒で610人の採用	43
		パート・アルバイト数()注8)	9,795人	(安全な労働環境の構築)	-
		女性社員比率注9)	14.4%	(男女差別のない環境の維持)	43
		グループ障がい者雇用比率()注10)	0.9%(単体2.1%)	1.8%以上	
		理念研修参加率	100%	(現状維持)	38
地域社会	グループ	ボランティア参加人数(率)注11)	1,129人(95.6%)	(全社員ボランティア参加)	46
		NPO(SAJ)支援注7)	9,814千円		49
環境	外食注6)	1店舗あたりCO ₂ 排出量()注12)	99.9t-CO ₂	97.9t-CO ₂ (前年対比で2%削減)	52
		1店舗あたり水道使用量	2.8千m ³	2.7千m ³ (前年対比で2%削減)	
		1店舗あたり廃棄物排出量	15.1t	(現状維持)	
		1店舗あたり電気使用量	19.4万kWh		
		全廃棄物リサイクル率()注13)	37.3%	40%以上	
		食品廃棄物リサイクル率()注13)	30.4%	20%以上	
		エネルギーマネジメントシステム導入店舗()	293店舗	新規30店舗導入	

対象期間は、2005年4月1日～2006年3月31日まで()は、2006年3月末時点の値注1)対象はワタミ(株)および連結子会社17社注2)グループの売上・経常損益は連結決算、売上は消費税を含まない注3)対象「外食」は、ワタミフードサービス(株)・ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)・(株)ティージーアイ・フライデーズ・ジャパン、和民中国 有限公司、和民餐飲(深圳)有限公司、三商和民股份有限公司、WATAMI USA GAMUの7社合算「農業」は(株)ワタミファーム、(有)ワタミファーム、(有)当麻グリーンライフの3社合算注4)2006年4月1日より持株会社体制への移行に伴い、2006年度の単体経営成績は前年度と比較して大きく変動注5)WFSはワタミフードサービス(株)、WDFSはワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)、T.G.I.F Jは(株)ティージーアイ・フライデーズ・ジャパン、和民中国は和民中国 有限公司および和民餐飲(深)有限公司、和民台湾は三商和民股 有限公司注6)対象は、ワタミフードサービス(株)・ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)・(株)ティージーアイ・フライデーズ・ジャパンの3社注7)対象は、国内企業13社注8)対象はワタミ(株)および連結子会社17社、社員数は就業人員、パート・アルバイト数は対象期間の平均雇用人員(1日1人8時間換算)注9)対象は、ワタミ(株)・ワタミフードサービス(株)・ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)の3社注10)対象は、グループはワタミ(株)・ワタミフードサービス(株)・ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)、ワタミの介護(株)の4社、単体はワタミ(株)注11)対象は、ワタミ(株)・ワタミフードサービス(株)・ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ(株)・(株)ティージーアイ・フライデーズ・ジャパンの4社注12)水道・ガス・電気使用量をCO₂換算(対象は外食3社の開店後2年以上経過している407店舗)注13)全廃棄物リサイクル率は、店舗で発生する全廃棄物に対するリサイクル比率。食品廃棄物リサイクル率は店舗で発生する生ゴミ・廃油に対するリサイクル比率(対象は外食3社536店舗)注14)目標・方針は2006年8月現在のものです。